

道徳便い

鹿島小学校
道徳便い No. 1
令和5年7月20日

鹿島小学校は、昨年度より相馬地方小学校教育研究会において「道徳科」の研究指定校となっています。

道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とします。

- ◎目標に向かって進んで努力し、最後までやり抜く子どもを育てる。
- ◎友だちのよさを認め合いながら、優しい気持ちで相手を思いやる子どもを育てる。
- ◎自他の命を大切にすることを育てる。
- ◎我が国や郷土の伝統と文化を大切にできる子どもを育てる。

昨年度は、「思いやりの心」を主題としたの校内研究授業を行いました。今年度は、「生命尊重」と、「伝統・文化」を主題とする研究授業を行う予定です。子どもたちがよりよく生きるための基礎・基本となる道徳性を養えるように、これらの重点目標の達成に向けて道徳の授業を充実させる手立てを工夫し、子どもたちが主体的に考え、話し合える授業を目指していきます。

1学期に行われた研究授業の様子をお知らせします。

第1回研究授業 2年2組 5月29日

○教材名「おとうとのたんじょう」 ○内容項目「生命の尊さ」

○授業の概略

生まれたばかりの小さい弟が、自分の力で手足を動かしたり、表情を変えたりする様子を見て、生きる力を感じている主人公の姿を通して、自分も生きていることを自覚することができる。そして、家族からの手紙を読むことで、自分の生命の尊さが分かり、命を大切にして生活しようとする心情を育てる授業です。

○授業を振り返って

子どもたちは、「おとうとのたんじょう」という教材を読んで、生まれたばかりの弟の様子を見て「生きているサイン」に気付き、それを見ているお父さんとお母さんの嬉しそうな様子を見て、自分も大切に育てられてきたことに気付く登場人物の気持ちや、「命の尊さ」について話し合いました。

授業の後半には、家族からの手紙を嬉しそうな顔で読んでいました。自分が家族に大切に育てられてきたことや自分の命の大切さに気付くことができました。また、家族の手紙への返事を書くことで、一生懸命勉強したり運動したりすることや、命を大切にして生活していこうとする心情が高まっていた

ようです。



第2回研究授業 4年2組 6月19日

○教材名「せいっぱい生きる」 ○内容項目「生命の尊さ」

○授業の概略

闘病生活の末、11歳でなくなってしまった由貴奈さんという女の子が書いた詩と、自身も子どもの時に病気で、由貴奈さんと一緒に院内学級で過ごしたことがある大介さんという登場人物の人生について書かれた教材について話し合うことを通して、生命の大切さをとらえ、自己の生き方を見つめ、命を大切にしようとする心情を育てる授業です。

○授業を振り返って

教材「せいっぱい生きる」を読み、由貴奈さんが書いた詩から、生命について考えました。「命は一つしかない。」「由貴奈さんはもっと生きたかったと思う。」「由貴奈さんは、精一杯生きたと思う。」などの発言がありました。さらに、小児科医になった大介さんの生き方について、ペアやグループ、全体で話し合いました。大介さんの、病気で苦しむ子どもたちの命を助けたいという思いや、精一杯生きることの素晴らしさに気づき、考えることができました。授業の後半には、これから自分はどのような生き方をしたいかについて、思いを書きました。子どもたちからは、「やることをやって、精一杯生きる。」「最後まであきらめなくて、命を大切にしたい。」などの考えが見られました。授業を通して、自己の生き方について考え、生命を大切にし、精一杯生きるようとする心情が高まっていたようです。



授業参観日 7月5日

年間に予定されている授業参観日に1回は、道徳科の授業を行うようにしています。今回は、1、5、6学年がそれぞれ授業を行いました。主人公の気持ちに寄り添いながら、自分だったらどうするか、グループや学級全体で積極的に意見を交わしていました。

- 1年1・2・3組 「みんなでルールを考えよう」
- 5年1組 「みんなでやってみよう！」
- 5年2組 「正義をつらぬいた人」
- 6年1・2組 「弱い心をコントロール」

